

間投助詞と「や・を」の識別 確認テスト（古典文法） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 係助詞／疑問（または詠嘆）。「あらぬ」が連体形で結ばれており、「月であろうか、いや昔の月ではないのか」と疑い嘆く係助詞「や」。連体形結びを伴う点の間投助詞との違い。

問2 現代語訳例：「月は昔のままの月ではないのか、春は昔のままの春ではないのか（私だけが昔のままで）」。

問3 間投助詞／呼びかけ。「子どもや」は「子どもよ」と人に呼びかける用法で、結びに影響を与えない。

問4 格助詞。「都をば」は「都を（ば）」で、「立ちし」の対象（出発点）を示す格助詞「を」に係助詞「は」が濁ったもの。体言に付き対象・起点を示すので格助詞。

問5 間投助詞／詠嘆。「あはれや」は感動詞「あはれ」に付いて「ああ」と嘆く気持ちを強める詠嘆の間投助詞。

問6 間投助詞ではない。格助詞「が」で、「わが身（＝私の身）」と連体修飾（所有・所属）を示す。

問7 接続助詞／順接。形容詞連体形「美しき」に付き、「（この子が）たいそうかわいらしいので」と順接（原因・理由）で下に続ける接続助詞「を」。接続助詞「を」は活用語の連体形に付く点、体言に付く格助詞との違い。

問8 係助詞／連体形。「君や来む」は「あなたが来るのだろうか」の疑問で、結びの「来む」は連体形。係助詞「や」による連体形結び。

問9 間投助詞ではない。接続助詞「ば」で、已然形「思へ」に付いて「思うと（思うので）」の順接確定条件を表す。

問10 間投助詞／詠嘆。「あな恋しよ」は形容詞語幹的な「恋し」に付いて「ああ恋しいことよ」と強く嘆く詠嘆の間投助詞「よ」。

問11 現代語訳例：「ああ、恋しいことよ」。「よ」の詠嘆の気持ちを訳に込める。

問12 格助詞。現代語訳例「風が激しいので、岩に打ちつける波が（碎けて）自分だけが（もの思いに碎ける）」。「を…み」は「…が…ので」の意で、「を」は原因・理由の対象を示す格助詞。

問13 間投助詞ではない。係助詞「か」で疑問を表し、結びの「近き」は連体形。

問14 格助詞。「我を」は体言「我」に付き、下の「野をなつかしみ」に対して主格的・対象的にはたらく格助詞「を」。体言に付いて動作の対象を示すので格助詞。

問15 係助詞／連体形。「雪や降る」は「雪が降るのだろうか」の疑問で、結びの「降る」はウ行四段の連体形。

問16 格助詞／対象。「命を惜しまず」の「を」は「惜しむ」という動作の対象（命）を示す格助詞。

問17 係助詞／連体形。「霜や置くらむ」は「霜が置いているのだろうか」の疑問で、結びの「置くらむ」（現在推量「らむ」）は連体形。

問18 格助詞／起点。「都を出でて」の「を」は「出づ」の起点（都から）を示す格助詞。

問19 記述例：文末（または結びの語）が連体形で結ばれていれば疑問・反語の係助詞「や」、結びに影響せず語調を整えたり呼びかけ・詠嘆を表すだけなら間投助詞「や」と見分ける。

問20 記述例：体言（名詞）に付いて動作の対象・起点を示せば格助詞「を」、活用語の連体形に付いて前後の文をつなぐなら接続助詞「を」と見分ける。